

# 令和5年度 学校評価表(安来高等学校)

自己評価・・・達成指数100以上⇒評価A(目標達成)、達成指数80以上100未満⇒評価B(ほぼ達成)、達成指数80未満⇒評価C(不十分)

評価計画				自己評価				学校関係者評価		次年度への改善策									
教育目標	育てたい生徒像	育成を目指す資質・能力	目標達成のための方策の1つ	評価指標	目標値( )内は1学期末	評価値	達成指数	評価	結果と課題		評価	委員からの意見等							
I	きびしく(きびしく自らを律し)	よりよい(地域)社会の創り手として、自分自身を律し責任ある行動がとれる生徒	自分と向き合う力	 <p>当事者意識</p> <p>何事にも自分ごととして取り組むことができる</p>	生徒が主体的に学校行事に参加したと感じているアンケート評価値(生徒No1、保護者No1)	3.5	3.6	103	A	生徒会と協議しながら企画・運営し、全校生徒が協力することで達成感が得られた。	A	・活気ある学校づくりが進められていると思います。 ・生徒たちの取組みも積極的に行っていると思われる。今後も継続して行ってほしい。 ・コロナの制限もなくなったので高校生活を楽しむため、行事など積極的に参加してほしい。探究では、年々自主的に取組む生徒・班が増えていると感じる。	・学校関係者からの評価を踏まえて、生徒の行事への積極的な参加を促す取り組みを推進する。 ・コロナ禍が収束した状況下で、行事やイベントへの参加を通じて、高校生活を充実させるための機会を提供し、生徒たちの自己実現を支援する。						
				 <p>自己研鑽力</p> <p>自分自身を高めるために、もっと学ぼうとする</p>	文武両立を目指した学習指導や部活動指導が行われていると感じているアンケート評価値(生徒No4、保護者No4)	3.5	3.3	94	B	各部とも週当たり一日以上の休養日設定や試験前の活動中止など学業と両立させるための取り組みを行っている。				A	・文武両立は難しい面もありますが、いろいろ工夫して行っているのを見て続けてほしいと思います。 ・全国大会や中国大会に行く部活動も多く、勉強も頑張っていると思う。	・学業と部活動の両立を支援するために、週当たり一日以上の休養日設定や試験前の活動中止などの取り組みを継続し、さらに効果的な両立支援策を検討する。 ・3年生の進路実現に向けた意識向上を支援するため、進路指導やキャリア教育プログラムの充実を図る。			
				 <p>自己調整力</p> <p>自分の活動を振り返り、目標の達成に向けて行動を改善することができる</p>	キャリアパスポートの中でルーブリックによる自己評価を行って目標達成に向けて行動の改善を促す。	3.5	3.2	91	B	令和3年度からキャリアパスポートを導入し、学期末ごとに記入する機会を設けることで自分の取組を振り返り、改善点を検討するようになった。							A	・キャリアパスポートの活用で節目ごとに振り返りと今後について自分を見つめる取組は大変良いと思います。 ・継続して行っていく必要があると思います。適切な指導もお願ひします。 ・振り返り、改善点を検討するだけでなく良い点を伸ばしたり、気付きを得られる工夫も必要だと思ふ。	・キャリアパスポートの活用により、生徒が自己の振り返りと行動改善を行う能力が向上している。次年度もこの取り組みを継続し、生徒が振り返りを通して行動変容を実現できるように支援する。
				 <p>見通しを持つ力</p> <p>目標達成までのプランを立てることができる</p>	個々に応じた進路指導がされていると感じているアンケート評価値(生徒No7、保護者No7)	3.5	3.3	94	B	生徒面談を大切に、進路に応じたアドバイスとともに、生徒一人一人の進路に応じた学力強化ができるように計画したい。また、オープンキャンパスや各種体験に参加してもらえよう、情報発信を行いたい。									
 <p>学びに向かう力</p> <p>さまざまな学習に対して、その意義・目的を考え、主体的に取り組む</p>	12月の調査で3点固定ができた生徒の割合	80%	58%	72	C	生活時間の3点固定ができた生徒の割合が少ない。また、家庭学習時間も増えていない。	B	・生徒の意識を変える必要があると思いますが、簡単ではないと思いますので、継続的な取組が必要だと思います。 ・3点固定は学校でどうにかできるものではない。学習についてただ学力を伸ばすだけでなく目標や進路との関連性を考えることで積極的になるのではないかと。	・学習意欲と自己調整能力を高めるために、生活時間の固定や家庭学習時間の重要性を生徒に明確に伝える。 ・学習の目的や将来のビジョンの中で積極的に取り組む。 ・教育プログラムを通じて、生徒が学びに向かう動機付けと自己管理能力を育成する取り組みを展開する。										
 <p>課題発見解決力</p> <p>課題を発見し、自ら解決していこうとしている</p>	総合的な探究の時間での課題解決型学習を改善・充実させる。	3.5	3.4	97	B	「目の前の課題を認識し、解決策を考えたり実行することができる」と答える評価値が3年生で大きく伸びた。				A	・育てたい資質・能力が明確にされ活動が行われている点が良いと思います。普通科ならではの探究の時間のあり方を今後ともご検討ください。 ・生徒たちにも好評であると思います。 ・課題を言語化できる生徒が増えてきたと思ふ。来年度も総探の形を維持しつつ、より良いものに発展していくとよい。	・課題発見解決学習の実施を継続し、さらなる深化と拡充を図る。 ・生徒の自主性と創造性を引き出すプロジェクトや実践的な学習機会を提供する。							
 <p>発信力</p> <p>自分の意見を適切に伝えることができる</p>	教科学習や総合的な探究の時間において、発表の機会を工夫し発信力と表現力の向上を図る。	3.5	3.4	97	B	新学習指導要領を意識し、授業や学校行事など機会を捉え、自分の意見や考えを相手に伝える学習活動を行っている。							B	・子ども議会で堂々と質問する姿に接し、頼もしく思いました。様々な体験をし、自信をつけていくと良いと思います。 ・生徒たちも経験することによって高めていけると思います。 ・色々な機会を作っていたください。 ・自分の思いや考えを言語化し行動に移せるようになった生徒が増えていくと思ふ。	・学校行事や授業を通じて、生徒が自分の考えや意見を自信を持って表現できるような環境を整える。 ・ディベートやプレゼンテーションなどの活動を積極的に導入し、発信力を養成する。				
 <p>自己理解・肯定力</p> <p>自分を意味ある存在として肯定的に捉えることができる</p>	LHR、部活動、個人面談を通して自己理解を深めさせると同時に他者から認められる機会を設ける。	3.5	3.4	97	B	3年生は、目前に迫った進路決定に対し、改めて真剣に自分に向き合ったことで、自己理解が深まっていったと考える。										A	・ルーブリック自己評価が低いのは、謙遜しているのかも。 ・3年生の進路決定に対して適切な指導をされてきたので自己理解が深まったと思います。 ・日々忙しい学校生活の中で自己と向き合うのは、大変だと思う。行事や学期末などに振り返りの時間がしっかりとありと良い。	・生徒の自己理解を深めるために、進路指導やキャリア教育を強化する。 ・自己評価の機会を増やし、生徒が自分自身を客観的に見つめる機会を提供する。	
 <p>他者理解・肯定力</p> <p>他者の考えを理解し、自分と違ったものでも尊重したり受け入れたりすることができる</p>	人権に関するLHRや学校行事・ホームルーム活動などを通して他者を思いやり大切にすることを身につけさせる。	3.5	3.3	94	B	道徳教育、人権・同和教育の一体的な指導計画をもとに、日常的に指導に取り組んだ。	A	・多様化が進む社会の中、正しい知識の獲得と人権感覚を磨く取組を継続的、計画的に進めてください。 ・人権教育はとても大切であり、今後も継続的に行ってほしいと思います。 ・総探の班別アクションの際に他の班の生徒が参加したり手伝っていたりした。来年度以降もこのような姿が見られるとよい。	・人権教育や道徳教育の一体的な取り組みを継続し、生徒の他者理解と肯定力を高める。										
 <p>協働する力</p> <p>意見や主張の多様性を尊重しながら合意を形成し、他者と協働できる</p>	総合的な探究の時間だけでなく様々な学習において協働的な場面を積極的に設定する。	3.5	3.6	103	A	斎斎祭、文化祭などクラスで協働しながら取り組んだ成果と考える。大切な学校行事と再確認させられた。				A	・それぞれの立場を理解しながら協働することは、社会ではマストな力であるのでしっかりと育成してほしい。 ・学校の行事で協働することの大切さを学べると思ふ。生徒が楽しめる企画をお願いします。 ・協働するだけでなく他者と意見が異なる経験もたくさんしてほしい。その中で協働できるかが重要だと思ふ。	・生徒が他者と協働する機会を増やし、協働する力を育成するプログラムを推進する。							